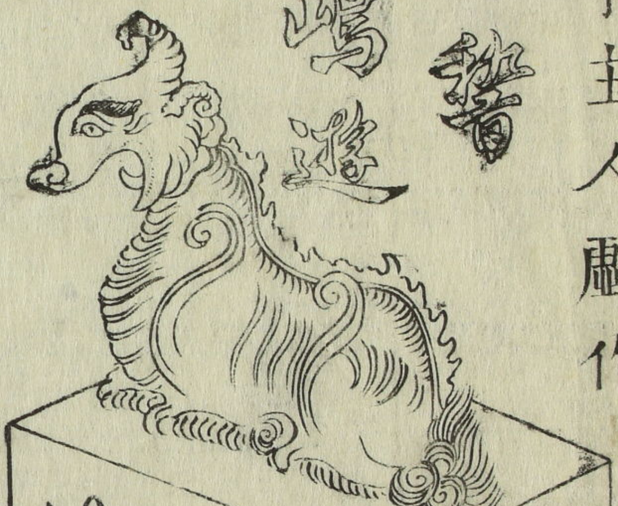
夢想兵衛胡蝶物語前編

壹

常一八三号
九冊
へ13
3658
1

は へ
號3658
1

曲亭主人戲作



夢想兵衛 胡蝶物語

一柳齋豊廣畫

全部五冊

群鳳堂
群玉堂

源氏物語 角田叙

鬱悩なる物ゆゑ凝ると
てもく所をしらず夫夢ハ形
労なき人目を閉ると目
志もれざるものゆゑその影ありまゝ
夢よ胡蝶とうまれこそ翩々然と
しく胡蝶也こゝろ意を得て荘子

きらど俄然そゝり覺るに及んで蘧々然
莊子也莊子が夢に胡蝶となる歟胡蝶の夢に
莊子となる歟覺て後ぞ疑なき物の變化殫
なき浮世を恰も夢の似たり善悪ふ莊子と胡
蝶の如く善の善たる我が我たる悪の悪たる氣が
我たる覺て後なほ疑ふ聾盲の夢ふ形をゑん
ど聾者の夢にあらをなじく名をなんもつぶ
ふあゝ悪をるんも我ふよりつぶ眼のつまざゑざる
ところふのいまざるらざる和合熟らくこれをめめみん性の
善たる化ゝく悪とより性の悪なる化ゝて善となる皆
是ふの起く所新の形よ後ゝ永異なるゝど夢なれや衰
あれや覺てそのもゝくところを知らべ

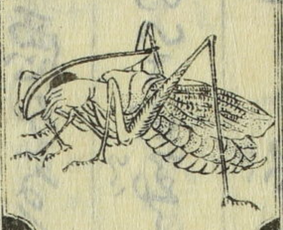
文化六年己巳六月

曲亭主人識

少 赤嬰圀鴻

羊 淫亜獅

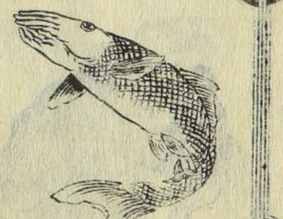
圀 泣 出



少年圀そのえん遊のごく思とのみをろうす
とのいさいうそ四ッのり水ま鴻とのひ不教学。
そのえん遊のごく思とのみをろうす
とのいさいうそ四ッのり水ま鴻とのひ不教学。

この圀よ赤嬰鴻とのふをあり明らいぶぐさのごく
かくごいおもそ二せぢのそをそみをそく法虫以又んの虫れらふめそく虫と

色 慾 圀



裙張蛇

大漂未

悪女の深南魅

二十五のむくつ紀よきそくちり蛇いその紀くら

又むくちよのふろみ魅とのふ臭のりらおを
あいせそがむがぢーえちふとふ鮫のりこえる
むくび参をうーふ秘そるべーつーむぢ

強　跡　蕨

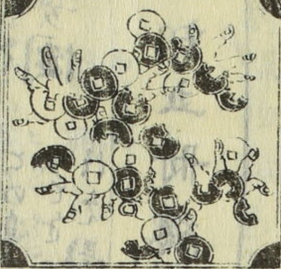
飲　青津桐

囮　具伊伊　簽

ごうりん囮いと酒をもりて食とん奥るのつぼうたらおそし
おとこのをとこのひんがるあをそろへの歩行ありまさ
青んものおをそろへみさうだるのもの

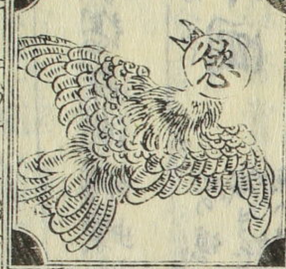
おとこ、桐かそのまふたい茶とんのどく本ばんむろうと
らそよ飯ようぐいのをとふのこあうらうとさそてたさ
ふらんでやくくらの餘めいそろ本文ふんえんたり

貪　阿太郎　次郎　計　梨



勢　慾　便　織

囮　止　脫　鵰



一名　仁長嶋

どんらん

ぶんらん囮いとさばそめくこをろうどをのつめあがさ
とそまうか待のおどくほめの先へ少をちりんあこけるとと
いうなのホのうそのお一文ぜにようまんめをそうぜ〳〵如〳〵

又ら〳〵ぶうとしの虫あり此もの義理とうぢをちう〳〵ぶ
おとまふざうとをらくともほうとのくふちうん
ぶうとうの鳥あり南蠻をきらめくん方面より羽をのそんとん

東都
發端
曲亭馬琴戲編

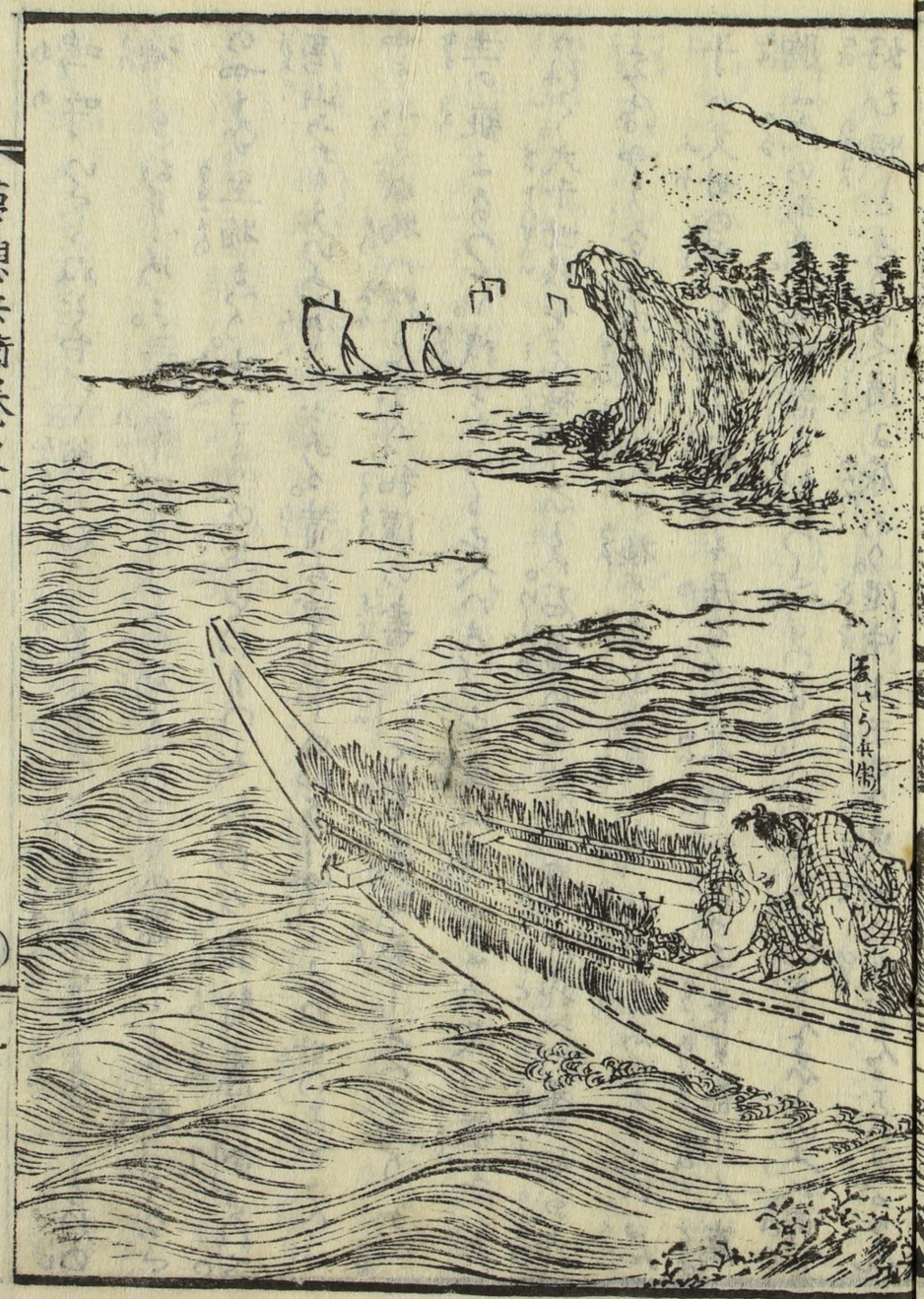
人生五十年。七十八古来稀なり。彊ある生を天地と稟て限ある死を火宅と
耽ら〳〵九六の百よ繋ぎて。一文銭よ生命を剥〳〵。二品九蟹よ火面を張て。
利を射る音。熱閙場の土ぐもり。富く。節前の大どりのひかるく〳〵つゞ説
つ泣つ。借たるもの地藏尊も。玉を抱びかうど。地獄の制度も金次第といふ
閻魔の口へ。抹香嘗ても腹の足るやうに。化の物と名にく〳〵ど金銭こそ長逗留
らう仕つぐ金言なるかな。ゆめ〳〵
ちび〳〵一夜酒の旅人のごく。入れのれば出るなり。陶朱が財も。ゐを救ふよは
るく。石崇が富も一期い有がほ。さればこそ飲食い命を繋ぐ軽みそ。肚餓とれよ

まづい物いふ。東海の鰯條。西山の鳳脯とハ。毛唐人の食ものを。小判で買ハ初鰹ウめくも。腹ハ街道茶漬ウつくも。咽喉三才を通るうちそこ〳〵して後よ薗松よ横丁てハ。大夫とつぐ〳〵の艶書被(ママ)直うらもおもてをもよくバ室庫ハ。膝を容うるそのいれものよく。始皇の阿房も。原憲が蝸廬も。宮も藁屋も。都も鄙も。黄いと隘とハいうもうり。足踏伸ハ寝る処が。席薦一畳の外へ出されぞ。さて赤衣裳ハ五尺の體を累ぶる〳〵假の身の皮蜀江の錦も。襤褸る細袍も。美しいとおもふ。それが美服袴くさ人ぬち。死ぐそへバ赤裸宗向院の土とうてハ。ぞれが美服袴くさ人ぬち。つて羨むものハ。紗綾縮緬でも。襤褸裏褌ハ。ろくなものハ。まいでも。麻上下ハ麻上下。ろの道理を合点されバ。肩と膝とを色紙あてる帷子着ても。二伏の暑ハ同ぬもあり。二両てらけ〳〵。二重紐ほの帯ちめても。白日青天よ。ま拭被つく〳〵女もあり。男だるをといふうハ衣服の美悪よりハあらぐ。商人のよハ夜着さやうよやとハ。古今の序者のるるあらぢや。風雅でもろ〳〵洒落でもろ〳〵。あるよりせてそろ〳〵騎まがるいろる物美をもて。高ハりのとハりうぐ。宛ハなれど二季ぐらひとつをとり込ま。借小袖流行模様の人ぞよめたちやんとさ〳〵と一ッまへ二ッぶつ襲務て被て出さ恥がくや褄前ハ質屋の庫へ。向さ〳〵あるもいとそろの。單衣服ハ貴賤をこころ。礼儀を整る彩色なれバ。蔽れうとも褄を引ケ。猜たるともお太刀をさ。痩身代でも借倒さぐ。天うふ授つるたけの業を勢めて。暇あるとうをりハ青表紙の端を開ね。昔の人の風流をえさ。今ぅぶ態とうの人のハ。金ぐつ〳〵苦をさるるハまへべ。天道必盈る成缺く。金があれがもづるがなし。子が多ければ。残がるー。美人ハ馬鹿あり。醜郎ハ才子あり。氣の利さのハ。浮気多

く。無にあれや意地が強し。堪忍五両と定めこれ。小妻木綿が一反でまず couple 三
四ぶもつこれの相場なり。密夫の扱金より。武両二分下直なるうちとうあん
ぬもろ物おやとひとりもやーの吸物椀。十人前はへ足らん私ども。一生涯を夢と暮らす。夢想兵衛とやりの
年。望のおうう世残捨て。一生涯を夢と暮らす。夢想兵衛とやりの
あうろう。渠ろかしそのむう。年も十六むさの囲。四十七字の假名川ろる。
蒲鳴塚のほろうは住ひて。こよ歎の春秋をむく風らも擔をおて。豹と
綱とう世を渡す。菊を東籬の下うへ採らねど。五斗米よ腰養を折
めん。上えてへ。及ねうすの夏うねと雨ゆらぬ日も筆を放さで。心を海
原の鷹ね比べ。常よ一葉を浮べてそ。一瓢の酒をたのこ。私よ眠ま私は
ねうそうく。その外を求ざりし。一日遊谷子が著したる。和荘兵衛とやう冊子
をとんこそみやう。老佛道を噛ろりく。能書究く精細

ろれども。馬鹿よ附る薬なう。荘子がうう上手。達磨がそ
分別。おまがるるう銚子とへ早嶋
の席薦へ。ろろるく酒をぐをとれた。額のえうるへ。酌とる女子
のれ夫心。席薦が伏ねバ會席ハ繁昌せざど。顔が冗
ねべ。松魚も下司のほへハへうど。人間萬事塞翁が。馬乃
糞で菊とつろうも。鑓虫が飲みもあうよ。和荘兵衛も
狗をろのようぞそ。暴風よあんべうよ。暴風
嶋めぐりもをべうよ。嶋めぐりせざぞハ。貧福窮達の理を
悟るべうよ。貧福窮達の理を悟らざハ。何をもつて和荘
兵衛といはん。画よう俳。綿を盛と版を足ハ。脾腹い腹よ備
ど。憂もつろうも食よてのう。葉乞も龍をこのようぞハ。真の龍乃

おそろしいる沢ろうがく。業平も色を好だハ。真ある女の志をもりがこころん。正真の物を生ざるくこそ。後学まハるれ。うや十万貫の。詰費残腰よ着ぞとも。彼揚州の鶴ふ無くく。大千世界を尚徉ー。人のなぞえぬ處をえんが。自のこともるぐー。暴風がふけりー。吹るぶさまー。又あやまくよ。頃日の日和のよさ。風の神も風の神。龍神どのもうらめんと。おくともるの願ひと叶も牽牧の神名よ舩とうるめ。もくり暴風をまほぐよ。弗と気をもびまぶーく。楫と枕よそんぞも。そろくと目瞳むそうー。白髪する老翁。曙義を著。約竿と肩み。太公望ふハ髯がるく。夷三郎ふハらとを老るが。怨残とくく舳前よ立在。こま起まくく。と医者どく若黨が。薬取を起ようよ揺起ハ。夢想兵衛松りーて。鐵壺眼をそうちり開き。岸をもるれさるつ。舩幽霊るー拇枚がるい。通ーつあいとそます。夢想兵衛の名よめぞ。善哉くうけど。佛ぐれ。ざるれく丹後國。水の江の釣翁そ。もうぶも蓬宮へ赴き。仙人の仲間入ーく。三百餘年の栄花を極め。ふくび丹後よ立ありーハ。古今不双の不出来ーるそ。開さく悔ーれ王手箱よ忽地よせー老の彼。於曽也此居と万葉集の。長歌みも浮名をこめー。浦嶋仙人とハこぶるこ。ぶれもうらねと假名川。こぶ生まー郷くさく。西蓮寺よ塚と築ま。そること隣どうのれハ。そるの情愚よそるぐー。吟くも笑止く。こまぶ年よりの真実ぞう。ぶるうぶれる



補嵩仙人

嗚呼いとらぬぞやく。翁もむく一亀よ。蓬莱宮へまろうとれの。
嬉しさおり一抜さ。三百年のあいだも渇まつべ一ト日の悲しさよう経しそのさ
のやうな生物まろう。生さまうの生をねりのさ。れのが猿智恵よ剣されて。
唐山みやういよ友うのがある。昔をぞびやのかうじやの。とんぬ世のとをえんさ
やうふ。こん物ハ牝そさぐく。和漢の書をしらべて聲家を威しまくらおりが一
生の疵よろうく。残ようけるとべハまろう。廣い浮世よ五尺の軀を葬
うはく。大千世界をえ極めるえ。石亀のおぐんご。鷹が飛べハ蠅も飛
ようぶやうみの。縦天地を極めうとも。自の為化のあるハそのぐ。戸口
子ハ父母の国を去らうと。歌人を居なぐ名所をまろ。手長足長小人嶌
胸よ穴のある国でも。慾よかろうまろう。人のえぬものがえとハよい。奇を
好む悩とまろうく。道よ尿あり。泥中よ玉あり。呉世の人がえるえれ

どその気のくの所をえ。真の活眼とハえ。さればとく。これをえんと
容易うらぶ。その境よ至らんと。元難し。鶴よ学せそれ古めくのうく。此約竿
よりべ一。三五紙骨よて紙烏を造る。この糸と著て。糸のそる心を捻ま
繋ぎ。その紙鳶よ乗るとえ。風ものづく紙鳶よ乗るべうらべ。紙鳶ハ昔小股漢よ。漢の大将韓信が。歌乃
列子ハ考るべうらべ。紙鳶ハ昔小股漢よ。漢の大将韓信が。歌乃
陣中をえんみよ。造りくとハおるよ来歴を今さらうらべ。語かハぐんそのさ
その紙鳶よ乗らんよ。東風ふくとえ。ハ少年時を直下に。南風ふハ多恋国
を直下に。西風ふハ。強飲国を直下に。北風ふハ貪婪国を直下よ。
る逆らうとも眼ハ明みそ。遠眼鏡をうけるようくえ耳ハ聾しそ治聾
酒を飲ごうようくえ。雨よ霑まそ。日よ曝くされとも。食ぶれとも饑そ。腫ごと
ども痩まごと。こまその紙鳶の奇特之。彼四の国の間よ。四ツの郷あり。哀傷

郷といひ。煩悩郷といひ。食言郷といひ。歓楽郷といふ。おのく風に随て。到らんと自在に。努く疑ふ事なかれと。いふと斉しく散て滅て。狗竿のみぞ遺りける

少年國

夢想兵衛が投る狗竿を。浦島が投る釣竿を。教よ住て。狗の糸尻につけゝれば。その糸尻より紙老鶏を張ことの。ちと細工と世の具合をもいはゞぞ。章魚といふて。鳥賊とゝもに牛と牧子が乳ひうと。鼻を通ことといふ。蔵より出ざるや。仙人よりうをきまゝ気よりの。忽地雲よ衆が来ること。未を杭よ結とめそ。その名は紙鳶の背よりまつこう紀。風のりてめくを約束うと。東風そよくと吹ふく不思議やその紙鳶。夢想兵衛を奈せく。

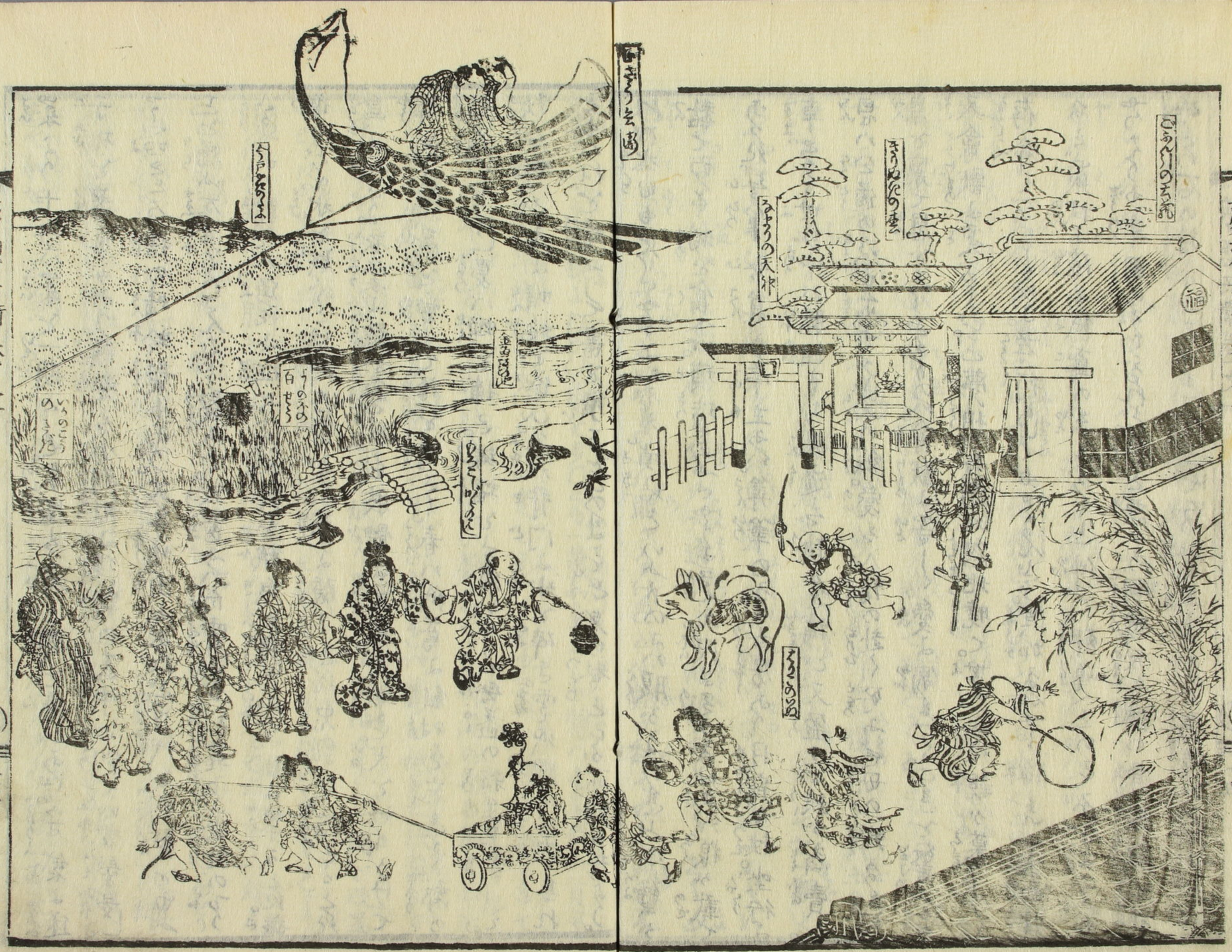
空中よ閃き行り。雲を霞とのそ行よ。そのまゝ長くなりて。富士山の頂上とさゝむまでよりう。夢想兵衛そ。そゞめそ落まいとそふこく。一ゐ不動よもつく暮ても居ること。その紙鳶ちゑんと住く動うねば。危きは勿論て。おそろしいとも哀ぞ。板三寸下は地獄ともうるが。海転変して世をとるのもあり。梢五六丈上より落ときび。命よかけがえがあつても。それ限りやとまうるのぐら。枝をもろとも樵夫もおまけ。卵うら陥むやうにおしび。物はなのうち汚穢。貪慾も貪恚も深きが。備残をが苦よりうね道理ぎや。と早合点こく。そうく温哥うたひるがら。下界遥か道下ぞ。こそ名よおよそ年國。郡は何とゐふやう。そこねど。水よ絵とおなじくてこの処の人物そ。悉く稚児ぬく。その好景絵よ画さ。小人為よ異るうぐべ。赤彼塞の河原よ似よう。されがそこ活るのいづまでも。化生みて。

天地陰陽の氣よ包もれ風のごとく生て出く。身の丈僅
ヨ二尺よ男ゆら女ゆくの。ゆゑ髪をそりて。坊の窪へ一括その毛を殺て。
顳門。ひくくと動きく。天窗の栗ゆるごと。搗ゝその辟のごく。手も刺ぎ足
もうみ八紙ば立とも。歩行ともうぶねのもあう。男子八桃を垢よ浅黄
水垢。女子八。桃色を垢よ白き垢。ぞ乳も鶴亀松竹の大きる紋を金
銀泥みて描ごゝよ赤ゝると。晴小袖ごゝて副紋の外よ帯を結ぎ。顔みそ
ほうれい綿を戴きく。味醂酒の樽の漏るごく。鯰の
横様ゝ。猫碗八ありふぐら。三度の食も。乳汁ゐゝでも飲ぎ大小便も
居るぐらゝれて。衣裳の濡穢を汚厭ひなば。浴よ入るよ成長嫌らひて。月
額よ森ゝ時よ剃らも人の物。ゐ物の差別るく。ゑる物毎よ不ーぐりく。
ゆうねばぎうんぎ階でむうり。含よりうよ入まて。歯のゐれくせよ。眠る
もうり。大ゝうれものをいぞぎめいよも死言ゐれば。推量ーても図とりがく。
火の燒を走ぐ刃の鋭き物ぎゝぎ。昼寝ーて夜八寝ぎ。枕八真ゝ
赤小豆を入ま。蝋八毋衣蝋を調宝ぐり。森ーてもけば泣。肚餓れば泣。
暗ゐれば泣。走ぬ人を見まば泣外へ抱て出ばるく。その泣と見よ児
あり。乳首ゝくまゐれば。忽地泣やむを妙るり。そのうるさてゆまさ。
狐ていんやうもるけまど。天道八人を救ぎぞ。この水子村ふ八恩愛といふ
二柱の神をつかーて男神を警く令と稱へ。女神を奶くの令と祷へ。
お乳毋。攸漬。伽庭役抱もり。里親。小児医者の神ゝよ至るまで神
あつめよ集めゐひてまうるべき由緒の家へ八。お乳毋攸漬。伽庭役の神
を遣ーて。中人の処へ八。抱守里親の神をつかーて。るぐくの処へ八。ぐうくう分
身ーて影向あり。神養ひよ難ひ。神育よ育のよ。その慈愛の深ゐ

と。硯の海を掻るとも。筆もみな書も尽さゞるべし。日よ曝を小蒲團そ。虱生さ湯気立さゝ。腐乞てる海蓙のごくるれども。これを臭〳〵と思ふ人ぞ。雨よ恨むもの〳〵盥へ水のるてる鶏卵のふるもくる異ろ〳〵ねども。これを禄〳〵と思ふ人ぞ。懐の中。膝のうへへ尿をされても。腹をそちらへ人ぞ。可笑もるいてる。げら〳〵笑ひ。寐るとてねんころと唄ひ。手を抗て胸を敲き。足を揚て。腮を啣より。髪をむしるまて。乳房よ歯形をつくる至て。腹痛むとあるとも。その礼を答めもの人ぞ。虎子を枕として夜をあかし。鄰ある宵の日をとらじ。やうやくよ寐せばけて。やゝ嬉〳〵やとやゝ周もるく。かゝの音よ駭きそれ。結びかけし髪を握り。食ひかけし茶漬の香の物を吐出し。周公旦が出よくるまよとをろう。りそうと遠く。芝り迎へて抱き起し。のんきなるいねもせざるよ。ひざるれ腹も猶そぞ。

安閑とあるのもうよの楽ころんでかるざまろよさ。よや国のころある年。十三月めぐり生まて人でも。斯元を長くりる物かさて暇あるをりくへ。ま打〳〵とつてうまをうくせ。そのあくとりつてへ掌をつうせ。天窗てんく。けぐり〳〵さめぐの藝をまろけ。こゃぞぞれへ醴と麋炙を定め。轉ぶを剛のと誉め。注をよん子と誉め。さとりくが魚貝を食せ些の物を舐へそもてんと肯と改を拗させめ〳〵紙まんまといひ。義をおつけといひ。おハせものをさいひ大便をうんさといひ。小便をまく〳〵といひ。神仏をのんろうとのひ。花英るる物をるうろとといひ。恐ぐさりの紙のやく。又もろうとのひ。歩行をあんよといひ。立をとうちとのひ。降つをねんねとのひ。撰児をもり又ねん祝といひ。穀き物をだごといひ。ようぐおぐうちといひ。犬をころくといひ。猫をまあくとのひ。巣をちうくといひ。魚ををさとのひ。茶をちやくとのひ。酒をおさ。又おろうともいひるる紙てといひ。

さおんとういひ。衣裳をぞといひ。草履をちよぞといひ。男子を坊
といふ外國と言詰のちよるぞ。そうくそうぞ。そうく腮を當てげく笑せ。
坊が雛が子ざと同よ工もあり。按ずよ麝美をさうさうのこの如よう外
おかの。大約この郷の時疫さ。疱瘡と麻疹と。百日咳。こゝの除五痒。
驚風。胎毒ホあり。いづまも似よる症るれど。菜剤を嫌つく。零でうも
飲ど。熱のある。そよ脅恵づんさ。朝うう晩ゃ心抱まくおようう。いつ盆
ゃう正月ゃ。腋よ食よの外よ慾もる。三年ゐく懐をこゝるれ。五年
ゐくそうく走り。七年ゐさ。寒暑を去。當家よう七家までを一期と
さそいづまもひそうめれがうよねば。恩愛二柱の神の守ぐせるよようべ
きそ。一日も佶ぐさけまでどかる。然ゐ。天道別して油斷ゐく。かくのごく
絶の半當あり。水田といふりのゐ。眼がるのけまど。小鰕が黏てゐく。物をえ
れが。水田もえてこゃうよおぶえ。瑣珞といふりのゐ。小蟹が
黏てゐく。物を食へば。瑣珞もあさゃうよ覚え。狼よ足がるのけまべ。狼が載て
ゐる紀。孝筆を算る亭主ゐ。算筆のる女房ゐく。目盲よ杖。坐行よ
車そうく世の中ハ肱相りち。天道さ缺るを補ひ。又盈るを缺が斎責之。
恩ハ公道の汲を糸ゐそ。又の賊。愛ハ人情の赴く所ゐそ母の賊。
恩を稟て恩をそうざるりのハ。禽獣よ等しく。愛よ溺まくこ。こまゝを教言ざるも。
又禽獣よ異ゐくど。と夢想兵衛ハ忽地曉て。世よるの紀親が墓しく。
存命てござると紀よ。孝行ら。くもちるんぶ冥加るんせく悔しゃ。面目
なこぞ拭ふ隙よ。紙鳶の糸よるくと伸て。郷嶋へとのそゐぶよ。こゝも
ちえりゃ年國のうちゐれど。惡さと悪とゐ潮堰。天矢桙の骨脹離不敬


きうりこぞう
ろくろくびのつま
きりかぶのつま
ひとつめこぞう
ぬりかべ
いっぽんだたら
うのはな
ひとつめこぞう

家よう十五六家を一期とそ。衣服を肩と腰を縫ひあげず袋よ逢
子札を著るもあり。頭髪を小判形よ。頂顱のまい中を剃て四方髪を
やう〳〵四さころ結の蜻蛉髷もあり。茨子坊主もあれど月代を剃髪を曲の
ごとく嬶み左。髪くへざんだら髪ふく。天窗みへ白雲さる引鼻ち氷柱のやう
なるもあり弱虫ハ強虫よ征せられて。それを餓鬼大将と仰ぎ樹よ攀るとそ。猿
猴のごとく〳〵水を越ぐとそ河童のごとく浴さるとそ。草よ隠れとそ鬼のごとく
鳥よ似るとう。衣裳よ縫裂を厭ざ。肢體よ生瘡を厭ざ犬をけしうけて。
捧をもちし嵐を愛して珍を鳴さる。春ハ紙鳶よ飯ねを忘まごとく鄰の
梅花をちらし夏ハ蟬を捕ら。蝙蝠をとる紀おとして。妥盃の殺生を楽しむ
秋そ野ごと多よ蜻蛉を逐ひ冬ハ背門よ氷を砕き雪を紙團め蛍を集れ
どもこれを燈ふして書を讀とそのまごとも。兎角の勉とする不朝の立ようう。

昼の八つまで机よもたひ筆をそれどもうそ飽まて。草紙へ水をとうけく勘定をあやし。生もせぬ小便よさんざく立て
傍輩の草履をかくしもるい厠へうく。掃溜の桃の割木を
うけ大小便の番札もその数うそうそけまバ筆を酌ること淡墨を
つけるがごく。手を塗面を塗るとそ。草紙よう黒く。湧る袖でうそ。土間を跣足
であるそ人の前へ出ざ。指を銜え後巡りそ。袋を被つる猫のごく。こまてう
弱虫を罵るとそ。膝を抓あそ。唇吻剃刀のごと。戎い好てぬうるこ〳〵端そ
こそ雪踏のほろ〳〵を厭ざ或そ障子を破り。行燈よ穴をあけ壁をそせり
て土を食ふ人の指初を捜して線香をその罪故しがうけまバ師
匠尊者。已むとそ紙ろごとく。机よのぞせ。茶碗よ水を入まてくるとる時そう泣を
まそ恥をもうごとそ。灸をとうえとうろ〳〵とそ四鄰を動して。男のうを名ばざ。

此地の國法ハ罪あらく答ると死ざる内ハ脱去ふことを得ず。或ハ背を打ち。或ハ臀のつねをつまみ痛む。細引にてそうと縛り押入戸棚へ入置くなどを刑罰の第一とす。その外くハ昼の灯燭より火をそり艾を足せらく懲らしめ。みる色天矢挫の開闢より今に至るまでの例を管領し。鼻の下の長さハ一寸のあるものハ寸の長さを貪り。手の長さハ一尺のものハ一尺の長さを盗む。打れども両親尊者ハ慈愛の心深くして仏國なりとて。人を刑罰せず。その法を怕れ下銭の男女ハ一人あつて彼と争ふことを禁じ。別人あつて彼と争ふと互に目を細くし。鼻をひろくせ。歓びの心を大

くするなどを賞罰正しくするなり。又食物を見るごとに食ふ。桃柿。梨子蒲萄。甜瓜西瓜。蜜柑九年母を食ふ。餓しる猿のごく。唐茄子さつま芋を最上の珍味とす。饅頭羊羹ごぼう焼大こんの類。よくて甘ものを嗜まず。酒と煙艸をのむハ稀之。年中より一度。正月の松の内より麻上下をうけて。大きな名をうたれて門ごとをまわるなどハ。ちとあつめじけまことと。二月初午の稲荷祭ハ。さるのつく猫のごく。飲とあるハ食ふことなり。二月も三日も過ると猫も恋ハぬごと。五月ハ門に幟を立て菖蒲力をひけよと。幟杭よりごく。幟竿よりハ。ひのきよりて。その高さ。ハ。十二月八日の吹革祭より一番まで。膳を誠をそろへて。盟よりとハ。大誓文をそこに記の頭より松三本と唱へ。呪ひ祈ることハ。宝と唱る呪あり。三束より髪をおろし五戈

みて碌々たる女子の七栄みそ級を解を驕奢のえじめとて祭の練物よ立で生
涯の面目とそくるなどこる耳目を驚とそともるれば夢想兵衛の再び悟て
そのど小膝を敲と打子を艱て教ざるハ父の過なり訓導ずその嚴ならざるハ
師の情ぢる之父教師嚴きと両なげ外なげまども学問の成らざるハ子の罪
なり。と司馬温公がいひんも。そろ子うく豆紙学のなど名を揚家をも
身を愛せざるる。子よ忘ありとりくどる。その父ことより教ざるハ子と無るなり。
不幸つづまろ甚ーうんの。その不教嶋の形勢を見まが飽まで食ハせ暖そ
衣せ一挙ーそ教ざれも多み。親を嚴ど。賞罰正ーうざる有よ。その志よ悖り
いろくの人。その子を遠ざるとの勢ひ約まされがこ。それを責ると甚ーしけまば。
終よ愛を失かんと欲ろよがゆ多み。必ず師ーえよめう。それが師の恩か父母の

亞ありう。ろ紀と釋児よ物をでゆる教ろうも捷ーぐ。その二字へ二字を千
金と定む。今い数百字を暗ひ約そ。五節供銭の二百文で過ろの類養こ
とそくり文字の相場。るどくかくでより直あいろる。世よ筆文盲の妻
こそ。やくく賣うやくく買よ。文字の相場よるるべーされバあや。多智ろる工
三年よろど。假名半年の二奉もあぐまべ。や物の用よろうとおぶえ貧
乏人の子よ。ろーのよういぬりのぎと。師近よろうりみて。年季奉公よ出し
よ而がつが家よ於んでおくうまふど。年中二度の宿りを待れて使よ
出ることいろくへ。親里へ去ろう。檀那どの迎ひよ桃丁りつそやくといつても親
里へ去れバ。両親ころくと吠をるしてよ嬉ーぐ。まぐ暮るあ間があろうハ飯よみて
あけの好な唐茄子煮てもよそる。食物がろれんやう。内よあさされよう。痩さまう
ど。と員苦労がさてある。油除と黄楊の櫛をろく。髪のおこまもけを撫

抜てやまア。おまへ方(がた)は好(すき)な事(こと)を言(いふ)。朋輩(ほうばい)がいぢめるの。伴(ばん)ドがまア毎日(まいにち)天窓(あたま)を
ぐら〳〵せるの。内義(かみ)が大根(だいこん)の皮(かは)をむかせるの。檀那(だんな)どのが水(みづ)を汲(くま)せるの。
水(みづ)を汲(くま)とそれが井戸端(いどばた)でまア。膝(ひざ)ガしらを揚(あげ)ようといふぢア。役
にもたゝねへ事(こと)ばかり。おまへ方(がた)ア。御(ご)らうじやるまい。こゝのやうに。三度(さんど)の食(めし)が細(ほそ)うござ
ありもせぬをおまへ。おまへ方(がた)ア。よくそたゝるよまの云(いふ)ちやく注(つが)が厭(いや)苦労(くらう)も。堪(こら)へ
うねそ注(つが)ぬ。ちやさん時(とき)〳〵頭痛(づつう)りもしやす。毎日(まいにち)天窓(あたま)を敲(たゝ)てゐる。洞仁(どうじん)
でもあるまいぢア。水(みづ)を汲(くま)せる檀那(だんな)どのも檀那(だんな)どのゝ。向(むか)ふ
の子(こ)の可愛(かわい)がりやうを。ちつとおまへ方(がた)も見(み)ならはねばなりやせぬ。大根(だいこん)の皮(かは)も大人(おとな)でも。寒(さむ)い時(とき)あかぎれ
がこさア。もれまアこんなのでござんす。揃(そろ)ひ落(おち)ざうさまある。店(たな)のくせに
竈(へつつい)さまるゝ約束(やくそく)の外(ほか)仕事(しごと)。揚(あげ)ものゝ油(あぶら)が跳(はね)て痛(いた)むの。白龍香(はくりうかう)つけてある。
その膝(ひざ)ぢらく出(だ)すと湯屋(ゆや)の二階(にかい)で居相撲(いすまふ)をとるぢア。

棒(ぼう)をぢア咥(くは)へ針箱(はりばこ)の引出(ひきだし)を捜(さが)すの。膏薬(こうやく)の貝(かひ)ぐらゐ。ふだんのうちに。今(いま)さがしてもよく幸(さいはひ)
やしやまア。法(ほう)そそられて親父(おやぢ)もどうやア。まだ。買食(かひぐひ)ひまアとて。年(とし)をとるまア
ぢア。面倒(めんだう)をとる主(しう)よりまア。買物(かひもの)もまアかまアやア。そちらが賣(う)ねばこちらも
買(かは)ねまアねア。買(かは)ずの紙買(かみかひ)へとのつて。小銭(こぜに)をつひもぢア鼻(はな)ひかもとく。誓古(せいこ)
ぢやのうつて。酒(さけ)のあぶらア。うるさくなつてやまア。浅(あさ)ましい。犯(おか)のまア。
饗言(きやうげん)歌(うた)のやうにとの不教嶋(ふけうじま)よまア。
年季(ねんき)二三年(ねん)も勤(つと)てる業(わざ)が入(い)ると。

五十三驛を服よりけの明ても暮てもとうらんものるく。乞食を三日とれが志
られぬといよ〳〵動がいやまさり。のうらくものふるもあまごと。
神の道ぶせもよとく。その慶ハ免されても。残る七年を勤果るハ稀なり。歳る
馬も。足よ隙があれバこそ。人をも蹴るなれ。上手が筆ぶまがあらく〳〵しく
こそ〳〵ようぢ」些も足をとめねる名。歳るとるべこころの駒もかの
おく。幻かう續書尊筆。文学武藝。身の程ぐよつけて手のさぐうけ
毎日〳〵うく。これを習せひとまあるとれい腰えへつけ。茶を汲せ。茶う
を教やと」バ。朝う晩まで。こころの駒よ隙がるいあるん。道へい踏まよいね
りのそ」されとそく庭子うんよろ。その恥とまく志ありて子ども物を学ばん
ともも。主る人。その使ひ易れをと便利とて。償ある給銀そして。稚幻とれ
うこれつひ。昼夜暇がるいもあるく。翌せてぶよ様

よぶるか。稚さりめくうひあれバ奉公を鼻ようけく。親のいよとさよくも歎
ど。天晴学筆文盲よそそあげるまても。庭子やとく人もあり。肩で
風そさるりめく。まさるめはい役よそぶ。新参よさうくまいされ。歯を切
てもすんさは。主人も今いうとまぐ。稚幻とれうう扶持くも。さそく
役よそねもりつとも至極。そろを歎るめ紙案ぶ翌ひおぞえ主の益よ
役よそねもりつとも至極。そろを歎るめ紙案ぶ翌ひおぞえ主の益よ
そそふとみがけるを苦学といふくれど。主も庭子も凡夫のまバ。そまあど
あいまうが」と夢想兵衛いよろぶ男よいあろそ。又女子の風俗よ。
そろをぞめて直一せバ。うんが不教の土地うでも。男子ねどよろあぐれも
せねど。三度の役も。母親よ給事さ女。おく食ひ。朝夕の卧簟も。母親よあけ
おしさせ。髪由母親よ結せ。寝も

せざるよ食ごのこと。衣服揃等よ金銀を費さず。物ぬふとべハ雑袋の截縫もなりとみけまごと。恥しいとも思ハず。手習よゆくを恩よりけく草紙い濡よさうよ投出して母親よ乾さセ。三絃ひくを第一の藝みたく。郷の病人よ遠慮せざること。これうち絶よ浮気よるうく。三絃の駒と共よそうの玩が狂ひ出あれ道へとまつて隙名を人ようるくもあり。むゝ子どもよ。なるべくとうけてやらせるよ。その方のそなんあるよ。又ふむすめよあやをさうとるハ織物よ巧るよんあるより。又貝あハせ歌骨牌。ぐりて目つけ絵るどいふ狂びをさうとるも。眼力をうくさんあるれど。この嶋あそハ古風ありとく。こまつの狂びをセざ。羽子をつ死めりし。鬼ごつこうのどとべて気がさる狂びをのこと」て男子を男子嗅ひともうごと。髪の結ぜう。衣服の模様。流行をよねて。こべく撰まセめちで三絃習へバ。こちらでも賀入。おちらで舞踊を習へバ。こちらでもるうらひ。

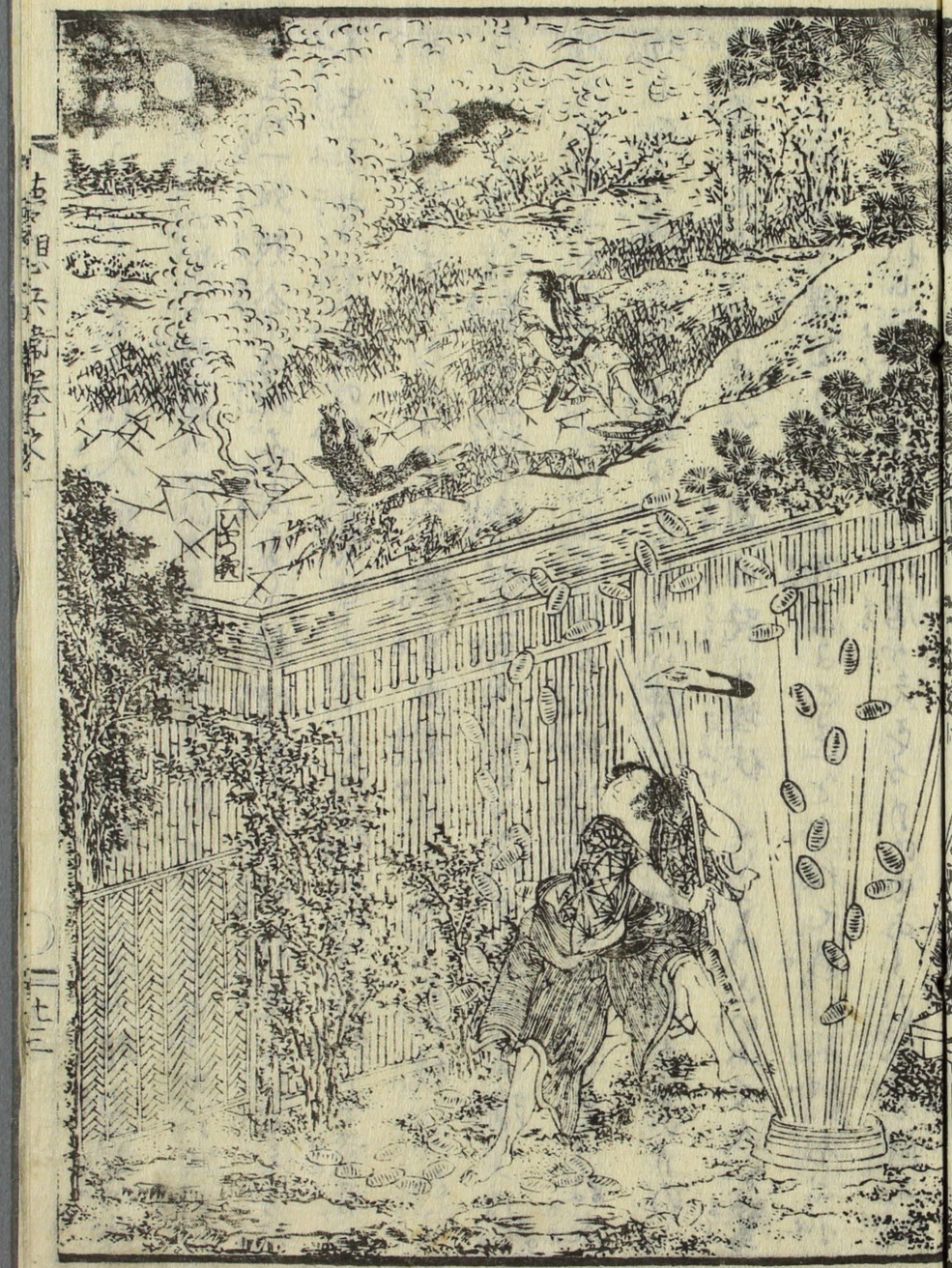
をべて人さねそのこさるあるよ常よ郷の財をうべく煩悩の後る隙あり三月の節供よくく人形と容あらひよりて先祖の遠忌を吊ふより残を費せざこれい天児の餘波あくべ牙を抓そ河へ流し。邪鬼を禳ひ一例をまうど女子の世帯そべめあくく。薪炊のあるをえうらいもる為しと。いつそのうともよ吟めよ」ど驕をおる者を倹を守りてこそのちくの為ふもあるめ。子ふ用の物よ綺羅を飾ら三四日の眼をしのぎて。蔦籠の中へ我まくい何のためよもるうがくんふびようとも紙雛よ櫛よ枝をえておくんこと。世うもそけどーそ。えどとろのあれその鬼よあくでこれをふるハ追ふというくとも一言もあるべうどそべてこの少年囲おハがらくひいく同章張技の大起揚を小法師。件馬かく。水鉄炮月おハ五六百銭ぶ代物を何の手もるく打うして紙屑籠へ拳一ぱるより。その費いくぐぐ千。

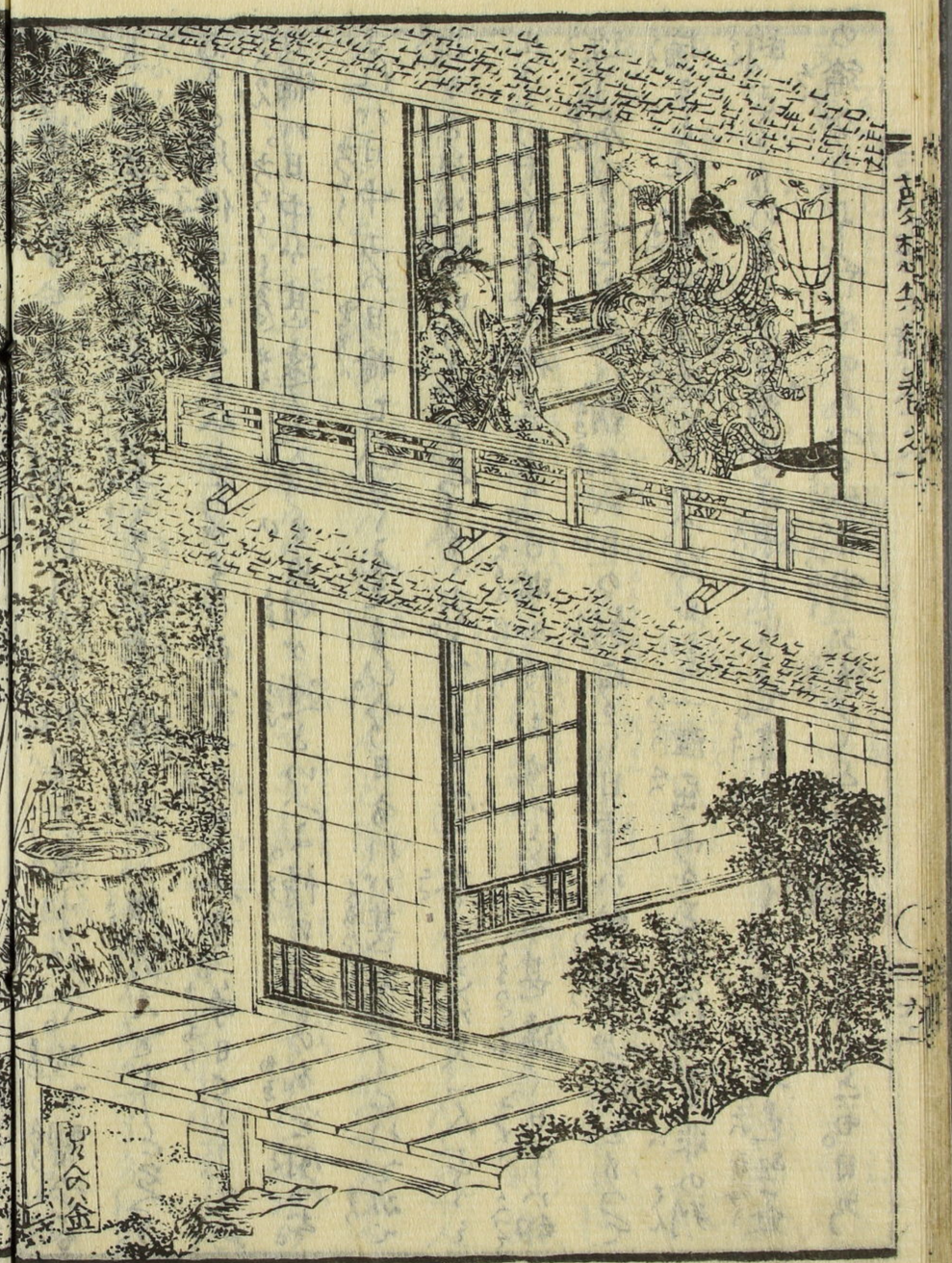
又築山泉水のごとく四方僅に二三尺よりそ。烏賊の甲ハ化して海のそこの石亀つくりあげらるゝ。囲げともその内ひろく金魚を鑑よ放され。小鳥ハ窓よ啼。松虫鈴虫をりくと。時よ随て養ふとのく井戸へ貝を伏せく側とし。田地ハ一土器を一反と定めく。農夫掛を肩よ[illegible]ても亦も畔さゞ弘の天神を祭り。流行の歌を早く覚え。估賣よ到ては屋基店よ借あく。かゝる費を半ば省てものよく学ばしめんと。夢想無漸ハおろへ志よの師をゑるとも。二季の東脩ハ自在ゑんと。

まるやうなり。小言よ隙よ糸ハるくと伸て。亦鄰の嶋を直もせべらの地の男女ハ年よりまでくいづれもくそらしく。鳴呼がましくも小ざゝ死。才發ゑとまゝよ。それバ不教禽よ品ありちと趣きあるやうなれど。遠慮もなく會釋もなく。さ一出口を利ふぐり。理屈よ似る不理屈よ

て。両親ある者をもつこめなり。ものが猿利根を鼻ようけく。物を習ふても未まで志げ。といふよりく筆ゑよとそう。

あるとき件の小ざゝんとちがうりあふて一人がいふ。毎日てゝしのよ日輪ハ日中が甚遠く。ハう日の時が近といふよ。脩の人。その友を同ぐ。それが日中ハ日輪ちひさくゑえるひ。ハう日なれバ甚大成しこれを見て揃ふとれハ。遠いちゐをもつゝと。まうそう母よ答ふまゞバ。又一人ふゝと出ゝ。いやくそれハ僻言なり。日輪出没志ゐふとれも甚遠く日中ハ却近し。ゐふとまれハ。朝夕ハ日の影ぬるく。日中ハ酷熱し。これをもつて揃ふとれハ。日中が近いといふ。いづれも一理屈あるとゝれバ。是非の判断ゑるものなくこの論終よ果さゞそ。年久しくなるといふ。是ゑ益の論なり。ハう日のめぐる如日中が近くとも。朝夕がちく





ほどうよやくとるにたらぬ人間がゝ下男ども推量して。こが眼力のおよぶさけをいくばかる理屈いひがらるゝべし。ぐづ〳〵人とあらそひで叶はぬこゝろ。一処無念の地を去るべく横領せらるゝ時放刀よおぼえず。不忠不孝不義の名を負せらるゝ外聞の外なる用の辨我意をそんとするゆゑよ。戯言も実ありて彼ようひよおつくうさく。長く怨を締ぶよ至る。かくるゝの人物ハ。堪忍といふことを志ぬ方外その嶋みもあるべしこゝにてこの地の人物ハ。堪忍といふことを志ぬ方物よこそく情がるく。親むとありへバ。疎くなるく。何の怨もあいりのい。天窓をちよいとさんさく。迎曲跣よ埋伏しそく。ようといふて人を驚うことけるく。像をうち。るる物ぢよこゝまでをねて賤い不幸ぢよこゝまでをねて賤い不幸ぢよこゝまでをねて賤い不幸

と不孝ハ天性なり。烏の反哺も羊の跪く乳を吸ふも。雁の長かの列を乱さぬも誰教るよりざるよ。おのづからかくのごとし。ましてや。鵜ハ反哺をもとゞ世よ孝行なる子をもつく。老楽ま統をるハ。長かの列をもとゞ世よ孝行なる子をもつく。羊ようく苦労をるそ。善種を蒔ま収の吾報不孝み子をもつそ。悪種を蒔ま収の悪報豆を執まべ栗が生善を積ば吾人る子孫が出来悪を積ば悪人る子孫が出来ることを己れ。よう生ぐ己よ返るものをまべ。その國の治ぬそ。國王の不徳。その家のおさぬそ主人の不徳。その子の教が死そ親の不徳。その身ろ容らまざるハ己が不徳なれば。人を恨むそ愚癡の至り。子よ孝を教ざまぐ。その不孝を責るものそ。耕さざそ稼が登ぬとそ。田地を置かやうなものそろ。子をもつけるとそ。気のつまるとものの色。朝おもふく起夜もおそく寝。暑中も肌ぬぐ寒の日も炬燵へ籠まつて。胡坐ゐて飯食ど。痛そうんぐそる。理非を明め。決断を速め。賞罰を正くせねば家内のものそ。取伏せどもが腹のよろこよ叱らいでものの紙口さかのく叱うつけ。我機嫌のよをうハ叱ぐさるも叱ぬ友吾悪の的をそ外しそ。るハ道へこけるのうの衣食よりまる家そ。礼節ものづく整ひく誰教えねど。朝夕の挨拶ものとろえ。外よ帰そとそ鼻つまみそるるものも帰るれバ叱るもせど。叱るとそもるハ。これが下賤のものく家をおさまるハ。ろ吾一己のみく。明くも暮ても。五百羅漢六百の席薦のうへよ。狐子兄弟。森り。起りそ二舛

なりの釜の飯。五人半人の潤の汁。香の物よき菜箸を用ひど。夜食より腊を獣ど。草箒の束ねく。屋根うらくさ〳〵草難ハらけて物干で乾し。こぼり腹の摠雪隠ハ。先のくるのおくりをまちろね。のぞる揚子の二階下ハ。羊蜂の店賃をあてび。三人くらせど。二人半くの夜具ぞう。五人の客人。二人ハ腰をうけ。こらで仁義礼智信を知くといふハ。九尺店で。鎗をつくといふやうハ。りそろと牛蒡が元ようなとるれどさのおくどの。るんぞ犯を教へのがよんとく。白屋よ住心。廊上下云べめよるが。礼義ももおくど。ようや親子条ろうんでそうもそもの。犯の気よろうど。一皿の芋をさそくの夜具ぞう。食ふてもの薬のるん犯あへ。ちそくをもそくとやふが考ふ。衣食が足らいでも。金銭ばかりハてお妻子よ倦ま犯ぬ。ねやうよ身をりてハ考ふ義も教ら事ぬぞハ。聖人ハ教をまそくど。生きるがくよ動くりのなまハ。鳥よ及ぬの考。雁よ辞譲の

ふあるやうるめみくく。大くの例ハ。ハ川が。巣とりのハ。人のりのいふことを咬ふくべきものるうねど。これぞ俗なれバ教ひぞも。ようくるる子ハよくるる。されバ竟舜ハ聖人のれた。舜の父の瞽叟を悪人又竟の子の丹朱ハ阿房ぬり。ををりくバ。教みからぬといふ。これなく鳥の先の量簡ぬり。瞽叟が舜を憎んぶ。後妻よ逐ハさそ。笠の墓の飛べるどる悪もせど。むぐ犯をりくとも名。舜の孝行もあらハれるうるぐぐの縦親が邪慳ぶやとく。子も又犯よ。おくまぐおくるるうハ。又丹朱ハ愚ぬり」とりくど。竟のろけがようけとべそ。親父が天下を舜ふ

讓ることを美しいともせざるを。聊も精むこころのなくの人のおのづから。墓をとうりの。勝んとうそぶき却て負じとうそぶく。孝行を尽さんとやくばこそ企及ばざるまでも。不孝ろうぜんと云うけんあるまじ。と夢想兵衛が問ふまゝよ答く。ひとうを見則考るなり。さるぐやくと

稚児の親を慕ふ。成長するも父母を慕ふ。孰れ不孝ならざるべき。親の膝の上へ乗懸そこそこするその情欲を恣よをして。終よ愛と父母よ失ひ。天地よその芳を容しまざる道を慕ふ。ゆゑよ幽暗く。親を慕ふ者よ幸ありどもとそれをいがでる。大きく成ろどもこれをありのざれ。

夢想兵衛胡蝶物語巻之一終